



第3節 人と人がつながる信州の農村

1

持続的な農業生産活動を支える基盤づくり

現状と課題

農村は、食料の安定供給のための農業生産活動の場だけではなく、豊かな自然環境や美しい景観を育む、潤いと安らぎに満ちた暮らしの場にもなっています。

清らかな水、棚田等が織りなす美しい景観は、持続的な農業生産活動により発揮される農村の魅力であり、将来にわたり残すべき農村資源として期待されています。

しかし、農業者の減少や少子高齢化等により農村を支える担い手が不足し、農業水利施設を管理する土地改良区等の運営にも影響が出てきています。

特に中山間地域では、農作業効率の悪い農地や幅員の狭いほ場内農道、老朽化した用排水路などが多くあり、持続的な農業生産活動を支えるための基盤整備が求められています。

近年では、大規模地震や過去に例のないような豪雨が増加しており、ため池の決壊や湛水等による被害から農地や農村の暮らしを守る対策が必要です。

また、野生鳥獣による農作物被害も依然として高い水準にあり、農村地域に深刻な影響を及ぼしています。

農村では、農家のみならず地域住民や都市住民も含めた多様な主体の参画による共同活動により、農村の多面的機能^{*}を維持・発揮する取組が必要です。

施策の基本的方向

農村の多面的機能を維持・発揮させるため、多面的機能支払事業や中山間地域農業直接支払事業等を活用し、農家のみならず地域住民や都市住民、企業など多様な主体の参画による共同活動を促進します。

農地と水を守り、農業水利施設を適切に保全管理する土地改良区等の人材育成と健全な組織運営を支援します。

農業水利施設の改修やほ場内農道の舗装など、農地の条件整備により持続的な営農を支えます。

大規模地震や豪雨等による被害を防止するため、ため池等の耐震化、排水機場のポンプ設備等の更新整備、地すべり防止施設の長寿命化など、農村の暮らしを守る環境を整備します。

野生鳥獣による農作物被害の低減に必要な対策を推進し、安心して農業ができる生産環境と地域の暮らしを守ります。

※農村の多面的機能

農業生産活動に加え、水源のかん養、洪水の防止、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承など農村が有している多様な機能

(1) 持続的な農業生産活動を支える基盤づくり



【土地改良区による農業水利施設の遠隔操作】

★ 農地と水を守る土地改良区の仕事

田植えの頃になると満々と水を湛^{たた}える用水路、バルブを開けると水道のように水が流れ出す畑地かんがい施設。農業者が日頃使用する農業水利施設は、土地改良区や水利組合等の日々の努力によって守られています。

これらの団体や組織による、頭首工、用水路、畑地かんがい施設等の日常管理や点検、補修が、安定した農業生産活動を支えています。

★ 持続的な農業生産生活を支える農業生産生活基盤の整備

県内には約2万kmの用排水路があり、昭和30年代から40年代のかんがい排水事業やほ場整備事業により整備されました。これらの施設は、築造から50年以上経過したものが多く、水路側壁の倒壊、目地部の欠損による漏水など、農業用水の安定供給に支障が生じています。

持続的な農業生産活動を支えるためには、施設の適切な保全管理と計画的な更新整備を進める必要があります。

また、水田地帯のほ場内農道は、未舗装のものが多く、粉じんによる品質低下が危惧されることから、野菜や果樹への転換が進まない一因となっています。このため、水稻から収益性の高い野菜や果樹への転換を行う地域では、作物の集約と併せてほ場内農道の舗装も必要です。



【老朽化により機能が低下している用水路】



【未舗装のため粉じんが舞う農道】



【更新整備を計画している排水機場】

★ 農地や農村の暮らしを守る排水対策

台風などの豪雨により河川の水位が上昇すると、排水路から河川へ自然排出ができなくなり、農地等に湛^{たた}水被害が生じるおそれがあります。

千曲川下流域には、農作物等への被害を最小限度に抑えるため、排水ポンプにより強制的に水をくみ出す排水機場が30か所整備されており、農地や農村の暮らしを守っています。これらの排水機場の中には、既に耐用年数を超過したポンプ設備も多く、計画的な更新整備が必要です。



ア 持続的な営農を支え、暮らしを守る農村環境の整備

将来にわたって農村の暮らしを支えていくためには、農業生産基盤である農地や農業水利施設等を適切に保全管理し、次代に引き継いでいくことが大切です。

このため、土地改良区や水利組合等による施設管理体制の強化、農業水利施設等の耐震・長寿命化を推進します。

大規模地震や豪雨等に備え、長野県地域防災計画及び長野県強靱化計画に基づき、ハードとソフトの防災減災対策を一体的に実施し、安全で暮らしやすい農村環境づくりを進めます。

多様な農産物の生産や農業体験・農園観光など、地域の特徴を活かすためのきめ細かな農業生産基盤と農村生活環境の整備を総合的に実施し、農業の振興と農村の活性化を図ります。

荒廃農地の発生防止、再生・活用の取組を進め、多様な担い手による農地利用の最適化を促進します。

野生鳥獣による農作物被害を低減させるため、関係機関と連携し、持続的な営農を可能とする取組を支援します。

めざす姿

- ◆農地や農業水利施設等を維持管理していく機運が更に高まり、土地改良区等の運営基盤が強化され、農業水利施設等の適切な保全管理により、安定した農業が営まれています。
- ◆大規模地震や豪雨等の災害リスクに対応したため池や排水機場などの整備が進み、農村の暮らしの安全が確保されています。
- ◆中山間地域の特徴を活かした多様な農産物の生産が行われ、農村が活性化しています。
- ◆荒廃農地の発生抑制や再生が進み、農地が有効に活用されています。
- ◆野生鳥獣による農作物被害が減少し、農業者の生産意欲が低下することなく持続的な農業生産活動が営まれています。

達成指標

項目	2016年度 (現状)	2022年度 (目標)	設定の考え方
荒廃農地解消面積	991ha/年	1,000ha/年*	農地の有効活用を図るため、再生可能な荒廃農地の再生及び再生困難な荒廃農地の非農地判断を進める。 ※本計画から新たに非農地判断分を含める。

具体的な施策展開

- 農業水利施設等の適切な保全管理
 - 農業水利施設を守る土地改良区の運営基盤を強化するため、人材の育成と確保、健全な運営のための組織統合や共同事務化を促進するための支援を行います。
 - 基幹的農業水利施設の長寿命化計画（機能保全計画）を策定し、計画に基づき更新整備や耐震化・長寿命化を進めるとともに、土地改良区等が管理している支線水利施設の長寿命化計画（個別施設計画）の策定や、ストックマネジメントサイクルを確立する取組を支援します。
 - 農村地域の良好な水環境を守るため、農業集落排水施設の効率的な管理に向けた統廃合や最適整

(1) 持続的な農業生産活動を支える基盤づくり

備構想（個別施設計画）の策定を支援するとともに、施設の保全対策を進めます。

● 農村の暮らしを守る防災減災対策

- ため池等の点検の結果、耐震性が確保されていない施設の耐震化工事を実施するとともに、ハザードマップ作成等のソフト対策を促進します。
- 豪雨による農地等の^{たん}湛水被害を防止するため、耐用年数の超過により機能が低下した排水機場のポンプ設備等を計画的に改修します。
- 県内全ての地すべり防止区域において、地すべり防止施設の長寿命化計画（個別施設計画）策定し、計画に基づき対策工事を進めます。

● 持続的な営農を支える農地の条件整備

- 中山間地域等の条件不利地域の水田については、栽培方法のこだわり等による付加価値の高い米づくりや地域の特徴を活かした園芸作物などの導入を促進します。
- 特産物の栽培など地域の特徴を活かすためのきめ細かな営農ニーズにも対応した農地耕作条件の整備を支援します。

● 荒廃農地の発生防止と再生・活用

- 農地の利用状況調査や荒廃農地調査などに基づく農地・非農地の適正な判断により、農地の有効利用を推進します。
- 「人・農地プラン」により農地の利用調整を明確にした上で、農地中間管理事業を活用した農地の集積・集約化などを進め、荒廃農地の発生防止や再生・活用を図ります。
- 農産物の生産販売と一体的な荒廃農地の再生・活用を進めるとともに、多様な人々による荒廃農地の発生防止などの取組を支援します。
- 中山間地域等の条件不利地域では、基盤整備により営農条件を整えるほか、中山間地域農業直接支払事業等を活用した地域ぐるみによる農地の保全管理を促進します。

● 野生鳥獣による被害への対策

- 野生鳥獣に負けない集落づくりを進めるため、県の野生鳥獣被害対策チーム等が市町村や大学、NPO等と連携し、侵入防止柵の設置、追い払い等の防除対策、緩衝帯整備等の環境対策としての総合的な取組を集落自らが実践できるよう支援します。
- 狩猟者の確保・育成、広域や集落ぐるみで行う捕獲対策を支援し、ジビエ振興による活用対策を推進します。
- 野生鳥獣による農業被害を軽減するため、市町村が作成する被害防止計画に基づく侵入防止柵の整備等を支援します。

★ 農村の暮らしを守るため池の耐震対策

年間の降水量が少ない地域や、農業用水の水温が低い地域では、ため池を築造し貯水することで、農地へ用水を安定供給しています。

しかし、江戸時代以前に築造されたため池が多く、地震や豪雨時に下流の住宅等に被害を及ぼすおそれがあるため、老朽化したため池の改修や耐震・豪雨対策を進めます。



【堤体を改修したため池】



1 都市住民との協働など皆に理解されて進める多面的機能の維持

農業・農村が有している、水源のかん養、洪水の防止、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承など、多面的な機能が将来にわたって維持・発揮されるためには、営農の継続を基軸とした農村の活性化が必要です。

農業生産活動を維持し、農地・農業用水路等の地域資源の適切な保全管理、荒廃農地の解消などの取組を支援するとともに、農家のみならず地域住民や都市住民も含めた農村を支える多様な主体の参画により、地域ぐるみで行う共同活動を支援します。

めざす姿

- ◆ 中山間地域等の農村景観や豊かな生態系、伝統・文化など農村の多面的機能の重要性が都市住民にも理解されています。
- ◆ 地域住民や都市住民も含めた多様な主体の参画による地域ぐるみの共同活動が行われ、農村の機能や魅力が保全されています。

達成指標

項目	2016年度 (現状)	2022年度 (目標)	設定の考え方
地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積	40,827ha	49,800ha	農業農村の多面的機能を維持・発揮するため、地域ぐるみの協働による取組を拡大する。

具体的な施策展開

- 農業・農村の多面的機能を維持・発揮するための地域ぐるみで行う共同活動への支援
 - 農地や農業用水路等の地域資源や農村環境を保全し、着実に次代に継承するため、地域ぐるみで行う共同活動を支援します。
 - 農業用水路等の泥上げや草刈りなどの共同活動を支援する多面的機能支払事業の取組の拡大と持続を図るため、長野県農業農村多面的機能発揮促進協議会、市町村、農業関係団体と連携し、活動に取り組む組織や市町村の事務負担軽減につながる活動区域の広域化や事務の委託等を進めます。
- 農村を支える多様な人材確保への支援
 - 農業・農村の多面的機能を持続的に発揮するため、多面的機能支払事業及び中山間地域農業直接支払事業を活用した共同活動における、農業者以外の多様な人材の確保を促進するとともに、関連する他の地域住民活動と連携した取組を支援します。
 - 共同活動を担う人材の確保に向け、農業・農村の多面的機能に対する理解を、農業者のみならず地域住民や都市住民にも深めるための情報の提供や学習機会の充実を図ります。

★ 地域ぐるみで行う共同活動を支援

農村地域の過疎化・高齢化、農家の後継者不足により、農業生産活動や農地・農業用水路等の保全管理活動によって支えられている農業・農村の多面的機能の発揮に支障が生じつつあります。

農業・農村の多面的機能が、今後とも適切に維持・発揮されるよう、地域ぐるみで行う地域資源の適切な保全管理活動を支援します。



【共同作業による農道や水路の草刈り】

2

多様な人材の活躍による農村コミュニティの維持

現状と課題

農村は、持続可能な農業生産活動の場（経済）と豊かな生活の場（社会）であるとともに、それらを包み込む豊かな自然環境が農村コミュニティに支えられつつ、調和・融合した共生の空間です。

そこでは、地域特性に対応した多様な農業が営まれ、単に農産物が生産されるだけでなく、農地や自然環境の保全、良好な農村景観の育成、伝統的な食文化等の伝承、多様な環境を活用する知恵、子供の教育といった多岐にわたる恩恵が、都市住民も含めた住民全体にもたらされています。

しかし、農業就業人口の減少や高齢化及び農村における農業者と非農家住民の混住化が進み、共同活動の低下、農村コミュニティの衰退により、農業や自然と密接な結び付きを持ち、地域の住民に継承されてきた食文化や伝統芸能、農業の営みとともに行われてきた祭りなどの農村文化の保存や伝承が困難となっています。

特に、中山間地域の集落では、高齢化や農家人口の減少が著しく、農村コミュニティ活動への住民の参加が減少し、農業用水路や農道などの地域資源を保全する共同活動の継続が困難になるとともに、地域の暮らしに不可欠なサービスが弱体化するといった課題が表面化しつつあります。

一方、「ゆとり」や「やすらぎ」を求める県内外の都市住民の農ある暮らしや自然と向き合う生きがいの場として、多様な自然や田園風景を有する農村への関心が高まっている背景から、交流・体験に訪れ、移住を希望する人も増えています。

こうした中で、魅力ある農村づくりを進めるため、都市住民に向けた農村の魅力発信や農業体験ツアーなどを通じた都市農村交流活動などにより、都市住民と地域住民も含めた農村の多面的機能保全活動が重要であるという認識を高めることが必要となっています。

今後、農村コミュニティを維持するため、多様な人々が農村を訪れ、魅力を感じて農村に移り住み、暮らすことにより、地域の共同活動が活発となる取組を加速化させていく必要があります。

施策の基本的方向

人が移り住み、多様な人材が支え合い共同活動が活発に行われている、そこに暮らす人にとって「魅力ある農村づくり」を進めます。

農業生産活動等を通じた地域のつながりの強化や都市住民との交流、地域に存在する多彩な地域資源を活用した地域活動や、女性農業者による農業・農村における活動を促進し、農村コミュニティの維持・強化を図り、祭りや伝統食など農村文化の伝承を進めます。

★ 農村の地域資源を活用した交流・体験

地域資源を活用した都市住民等との交流による地域活動の活発化など、魅力ある農村づくりを進めます。



【農業体験を通じた都市と農村の交流】



また、農村の豊かな自然環境を活かし、農福連携による障がい者等の就農、市民農園等における都市住民や高齢者の生きがいの場づくりなど、誰もが農業や自然に触れ合うことができる機会づくりを進めます。

都市農村交流を推進することにより、都市住民への農村の多面的機能保全が農村住民だけでなく都市住民にとっても重要であるという認識を深め、それを契機として新規に農業に参入するなど農村への移住を促進し、移住者を農村コミュニティに取り込むことで農村の活性化を図ります。

めざす姿

- ◆「農ある暮らし」を求める人の農村への移住が進むとともに、一人多役のような多様な働き方・暮らし方を認め合い、住民同志が互いを尊重しながら支え合う活力ある農村が形成され、地域の伝統食や祭りなどの農村文化が継承されています。
- ◆地域の状況に合った生活支援の拠点などが整備され、地域住民自らが様々な生活サービスを提供しつつ享受できる活動が行われています。
- ◆障がい者や高齢者にとっても働きやすいユニバーサル農業の取組が進められています。
- ◆農村女性の地域の意思決定の場への参画が進み、多様な人がそれぞれの能力を発揮して活躍できる農村コミュニティのけん引役として活動しています。
- ◆農村女性等が食をはじめとする農村の魅力を発見・創造し、地域内や世代間で共有するとともに県内外の都市住民へ発信することにより、信州の農村と積極的に関係を持つようとする人が増えています。

達成指標

項目	2016年度 (現状)	2022年度 (目標)	設定の考え方
都市農村交流人口	624,909人/年	690,000人/年	都市住民との交流人口を増やすため、農業農村資源を活用した収穫体験など地域の創意工夫による都市農村交流を進める。
地域おこし協力隊員の定着率	69.2%	75.0%	農村コミュニティの維持・強化に資するため、地域外の人材を積極的に誘致し、その定住・定着を進める。

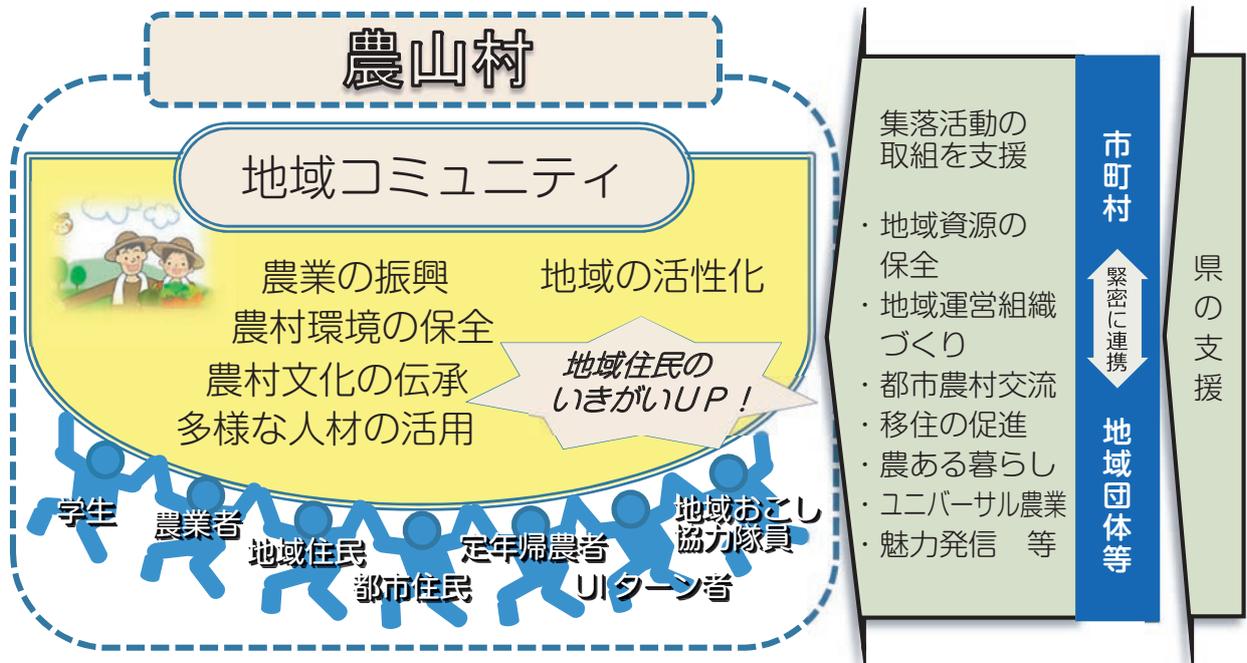
具体的な施策展開

- 多様な人々と連携した農村コミュニティの共同活動を支援
 - 地域資源の保全や、やすらぎの場となる農村環境の維持を図るため、農業者や農村住民、NPO法人など多様な人々と連携して水路の泥上げや農道補修、草花の植栽等の共同活動を行う体制の整備を支援します。
- 「農ある暮らし」を志向する移住者や定年帰農者などの定着を確保する取組を支援
 - ふるさと回帰や田舎暮らしを志向するU・Iターン者、二地域居住者、定年帰農者、地域おこし協力隊員等の移住・交流を促進する地域の活動を支援します。
 - 一人多役などによる農業への取組に対し、「農業で豊かなライフスタイル応援資金利子補給事業」等により、必要な機械整備等を支援します。
 - 世代を超えた活動の展開により、地域に伝わる伝統食などの食文化や祭り等の伝統継承を支援します。

(2) 多様な人材の活躍による農村コミュニティの維持

- 小規模な農地取得といった手法の検討、荒廃農地の利活用や農業大学の「農ある暮らし体験研修」などにより、移住者など多様な皆様を支援します。
- **農村の暮らしを支える地域運営組織などの農村コミュニティ活動の取組を支援**
 - 市町村やJA等と連携し、地域の拠点づくりを進め、分散している様々な生活サービスや地域活動の場をつなぎ、人やモノ、サービスの循環を図り、住民が行うソーシャルビジネス*など生活を支える新しい地域運営の取組を支援します。
- **ユニバーサル農業などの多様な取組を支援**
 - 園芸や畜産部門を中心に、障がい者や高齢者などが働きやすいユニバーサル農業の取組を推進するとともに、市民農園を訪れた都市住民に対する指導など、ベテラン農業者の知識・経験・技術を活かす取組を支援します。
- **女性農業者等の活躍による農村の活力向上につながる活動を支援**
 - 新長野県農村女性チャレンジプランに基づき、女性が経営主体として個性や能力を発揮するためのスキルアップ等を支援するとともに、家族経営協定の締結等による働きやすい環境づくりを支援します。
 - 農村に伝わる知恵と技を再評価し地域内、世代間で共有する活動や、観光業との連携、各種媒体の活用により、県内外の都市住民等へ女性農業者等の活躍と農村の魅力を発信する活動を支援します。
 - 女性が地域の意思決定の場へ参画することや、個々の能力を活かした地域活動を推進し、活力ある農村づくりを進めます。

【多様な人々と連携した農村コミュニティの形成】



*ソーシャルビジネス

少子・高齢化、障がい者支援、地域コミュニティ開発など社会的課題の解決を図るため、持続可能なビジネス手法で取り組む事業のこと。



3

地域の強みを活かした農村景観や地域資源の活用

現状と課題

本県の魅力である豊かな自然や美しい景観は、地域ごとの多様な気候条件に加え、先人の営々とした努力によって築かれたものです。農村の田園風景やそこに生きる動植物の生息空間は、農業が営まれることによって創出される二次的自然であり、農村に住む人々の日々の暮らしや共同活動によって育まれています。また、農村は、水源のかん養、洪水の防止、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承などの多面的な機能を有しており、その機能は農業を継続することで維持・発揮されています。

しかし、農村では、過疎化や高齢化が進んでいるため、農家個々の農業生産活動だけでなく、環境保全などの地域の共同活動が十分に行えず、荒廃農地の増加など良好な景観や環境が損なわれている地域があり、今後このような地域が更に増えることが懸念されています。

一方、水源のかん養や自然環境の保全、良好な景観をつくりあげている疏水やため池などの農業資産については、新たな観光資源としての関心が高まっています。

また、持続可能なエネルギー施策への転換を求める機運が高まっており、水力、バイオマス等といった資源が豊富に存在する本県での取組に、県内外から注目・期待が集まっています。

農村の多面的機能を十分に発揮し魅力として活用するため、この魅力を広く発信するとともに、次代に引き継ぐための保全活動の取組を更に進めることが必要です。

このため、地域住民や都市住民とも連携し、地域の伝統野菜、農村景観、農業用水、バイオマスなどの地域資源を観光などに活用する農村ビジネスの展開を重点的に推進する必要があります。

施策の基本的方向

疏水等の歴史や景観などの魅力を「学びの場」や「観光資源」として活用し、観光客等に農村の「こだわり」や農作物を育む環境を間近に見て感じてもらうことにより、農産物の付加価値向上や農村の多面的機能への理解醸成を図ります。

農業用水路を流れる水が包蔵しているエネルギーを貴重な地域資源として活用することで、エネルギーの持続性を高めるとともに、売電収益により農業用水路等の管理にかかる費用の負担軽減を図ります。

また、農業バイオマス等の地域資源を有効活用するため、地域、民間事業者などによるバイオマスに関する取組を促進するとともに、関係機関と連携しながら、県内のバイオマス資源の総合的な利活用を推進します。

(3) 地域の強みを活かした農村景観や地域資源の活用

【地域資源を活用した農村活性化のイメージ】



★ 信州の農業資産の魅力を発信

信州が誇るおいしい農産物を育む疎水、ため池、棚田には、先人たちの悲願であった開削の歴史や、何百年もの間守ってきた管理者の想いが詰まった「物語」があり、信州の美しい景観を形成しています。

こうした農業資産の魅力を観光資源として活用し、地域の「こだわり」や農作物を育む環境を間近に見ていただくことで、農産物の付加価値向上や、農村の多面的機能に対する理解の促進による、農村の活性化を図ります。

県内の世界かんがい施設遺産



【拾ヶ堰（安曇野市）】



【滝之湯堰（茅野市）】



【大河原堰（茅野市）】

★ 巡る楽しみ、知って驚き、食べて喜び

観光地としても知られている立科町の女神湖、茅野市の白樺湖、長野市戸隠の鏡池等は、信州のおいしい農産物の生産に必要な用水の確保や、水を温める農業用ため池として造られました。農地を潤し農産物を育むとともに、美しい農村の景観を形成し、地域の人々や観光客に親しまれています。

長野地域では、管内8か所のため池で「信州ため池カード」を配布し、観光資源として発信する取組を行っています。



「信州ため池カード」
(長野地域)



★ 信州の農業遺産魅力ガイド

県内各地の疎水、ため池、棚田の知られざる歴史やSNS映えする美しい景観の魅力を多くの方に知っていただき、関心を持ってもらうため、県内113か所の施設の特徴や歴史などを写真とともに紹介するガイドマップ「信州の農業遺産魅力ガイド」を作成しました。

県、市町村の担当窓口や、道の駅、農産物直売所等で配布し、県内外の多くの方々に農業資産の魅力を発信しています。





めざす姿

- ◆住民自らの創意と工夫により、農村の景観、歴史的な農業資産、農村の伝統・文化などを「学びの場」や「観光資源」として活用しています。
- ◆農家レストラン、農産物直売所、観光農園など、県内外の観光客へ信州農畜産物や農業体験を提供する農村ビジネスが生まれています。
- ◆地域の漁業や観光業が一体となった取組により、釣り人にとって魅力ある釣り場が創られ、多くの釣り客が信州の河川・湖沼を訪れています。
- ◆地域の特産物や農業体験、疏水や棚田の景観などを求めて都会から多くの観光客が訪れ、農村に活気が満ちあふれています。
- ◆再生可能エネルギーへの関心が一層高まるとともに、農業用水を活用した小水力発電エネルギーが普及し、農業用水路等の管理にかかる費用の負担軽減が図られています。
- ◆地域と民間事業者との連携により、きのこ使用済み培地等を農業系バイオマス燃料として利用する取組が始まっています。

達成指標

項目	2016年度 (現状)	2022年度 (目標)	設定の考え方
農業用水を活用した小水力発電の設備容量	2,184kW	4,000kW	農業用水路等の維持管理費の負担軽減を図るため、農業用水を活用した小水力発電の導入を進める。
新たに観光資源として環境整備された疏水等の箇所数	—	25か所	農村の活性化を図るため、各地域2～3か所の疏水等を新たに観光資源として活用する取組を進める。

具体的な施策展開

- 景観など農村の地域資源を「学び」や「観光」に活用する取組を支援
 - 地域の伝統や文化を守りつなげるため、農村女性等による農産物直売所や農家レストランの開設、農業の6次産業化など地域資源を活用した取組を支援します。
 - 「定年帰農」や「農ある暮らし」を希望する人達の呼び込みを推進するなど、市町村と連携し、移住の促進に向けた取組を支援します。
 - 「釣り(場)」を地域の観光資源として捉え、市町村、漁業協同組合、観光関係者等が連携して、魅力ある釣り場の構築や観光サービスの提供など、釣り客を地域に呼び込むための取組を支援します。
 - 観光農園、農業体験、自然景観等を求めて都市部から訪れる観光客の受入れを可能とするため、農地の再生や条件整備、農道整備を実施します。
 - 疏水、ため池、棚田を新たな観光資源として活用するため、市町村や施設管理者と連携しながら、その魅力を発信し、農村への誘客を促進する取組を支援します。
 - 地域住民や都市住民が農村の多面的機能に対する理解を醸成するために行う、棚田の保全活動などの取組を支援します。

(3) 地域の強みを活かした農村景観や地域資源の活用

● 農業用水やバイオマスなど農村の地域資源を発電に活用する取組を支援

- 農業用水を活用した小水力発電の有益性を広く県民へ周知することにより、理解の醸成を図ります。
- 小水力発電の活用事例の紹介、発電施設の設置計画の検討や管理方法などのスキルアップを目的とした研修会を開催するとともに、補助事業の活用により発電施設の建設を計画する土地改良区等を支援します。
- バイオマスとして農村に広く存在するきのこ使用済み培地等を利活用するため、地域、民間事業者などによる発電等の設備導入の取組を進めます。また、各地の導入事例などを調査し、市町村等に情報提供します。

★ 農村の地域資源を活用した取組

農村女性等による地元農産物を活用した直売所、農家レストランや特産品加工による農業の6次産業化など地域資源を利用し、県内外の観光客へ信州農畜産物を提供する農村ビジネスを支援します。



【地元農産物の直売施設】



【農家レストラン】



【地元特産品の加工施設】

★ 農業用水を活用した小水力発電

県内の基幹的農業用水路を調査（H26年）したところ、小水力発電の候補地として可能性のある地点は164か所で、推定される発電出力は約26,000kWありました。エネルギーの地消地産は、地域経済の循環に大きな役割を果たすため、農業用水を活用した小水力発電など再生可能エネルギーへの転換が大切です。

また、小水力発電エネルギーの売電収益により、農業用水路等の管理にかかる費用の農家負担を軽減することができます。



【梓川右岸幹線水路の小水力発電所（松本市）】

